

白川郷荻町集落の自然環境を守る会 令和8年1月号

ねそ

守る会ホームページ <http://shirakawa-go.com/~ogimachi/>



世界遺産登録30周年を終えて、さらなる一致団結を！

守る会会長 野谷信二

新年明けましておめでとうございます。日頃は守る会の活動にご協力いただき、ありがとうございます。

昨年は、世界遺産登録30周年の数々の行事やイベントが開催され、多くの方にご参加、ご協力いただき、感謝申し上げます。20代から40代の若者と語り合った「荻町の未来を考える会」や、大寄り合い後の「荻町未来会議」。これらの議論や話し合いを大切に思い、先輩方が保存活動にご尽力された原点の思いを無駄にしないよう、今後は時代の流れも考慮しつつ、この素晴らしい原風景を次世代に繋ぐために住民みんなで話し合い、“一致団結する事が大事だ”と改めて考える1年となりました。

世界遺産登録から40年、50年、更に100年・・・と、永遠に続くよう今を大切に頑張っていきましょう。今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

荻町の未来を考える会・荻町未来会議を開催しました！

■荻町の未来を考える会

12月8日（月）夜、区長と守る会会長の呼びかけで、これからの荻町を担う20代から40代の若者が公民館に集いました。いくつかのグループに分かれて、飲食を交えながら、それぞれの思いを語り合いました。若者は帰ってくるのか、最近感じている課題、教育のこと等、このように思いと思いが交わる場が減っている昨今において、とても貴重な時間になりました。一度限りで終わらせず、語り合い続け、考え続けることで、荻町をどのような地域にしていきたいのか、みんなの思いを繋いでいけたらいいなと思いました。



■荻町未来会議vol.3

12月21日（日）大寄り合い終了後、世界遺産登録以降の歴代区長と守る会会長による「荻町伝建地区50周年・未来へのメッセージ」と題したパネルディスカッションが行われました。裏面に、パネリストのみなさんがお話くださった内容を紹介します。



写真（上）荻町の未来を考える会／（下）荻町未来会議

荻町未来会議vol.3の内容（一部抜粋）をご紹介します！

～取り組み、どんな困難をどんなモチベーションで乗り越えたか、住民へのメッセージ～

パネリスト：歴代区長…板谷克雪氏、川田裕氏、和田茂氏、野村昭吾氏

歴代守る会会長…板並和夫氏（欠席のため代読）、和田正人氏、野谷信二氏

進行：黒木徹氏

- ・世界遺産登録の頃、妻籠から多くのことを学んだ。大寄合が様々な議論をする大切な場であった。「やるしかない！守りたい！」という思いでやってきた。若者の活躍に期待している。
- ・電柱地中化やメディア出演も積極的に行い、経済的に豊かになった一方で、交通やマナーの問題が勃発。守ることと進めることとのバランスが難しかったが、決めるのは荻町区民であり、区民の声に耳を傾けた。「荻町のため！自分の代で失いたくない！」という思いで、アンケートを実施したり、とにかく粘り強く対話を続けた。荻町はこのままでいいのか、常に“？”を持ち、話し合い、意見を言い合える地域であり続けることが大切。
- ・東日本大震災を受けて、安否確認を始めた。地籍調査や交通対策にも力を入れた。結＝助け合いの気持ちを大切に、「守ることを困難と感じない」ようになれば。
- ・コロナ禍での対応は大変だったが、周りの人に支えられて乗り越えることができたし、自分の思いも明確になってきた。人口減少の中、どうしたら荻町が100年続くのか。一人では守れないが、「みんなで協力して」考え続けていきたい。
- ・世界遺産になり、観光車両の増加や看板の乱立など、世界遺産登録抹消の危機もあったが、駐車場を集約し、今の荻町がある。世界に目を向け、若者の考え、活動で地域を守ってほしい。
- ・守る会にとって、定例会の意義、委員や住民の協力が不可欠であること、諦めずに議論を重ねる大切さを再認識。飲みニケーションや仲間に支えられながら、月1のねその発行・マスタープランの策定・交通対策に重点的に取り組んできた。守る会の活動や課題を伝え、住民が自ら学び、考え、次世代に繋いでいけたら。「自分たちが守る！」という気持ちが大切。

区と守る会の取り組みについて見聞きしたことはあっても、その時その時の長の思いやご苦労に触れることは、特に若い世代にとっては貴重な機会になったのではないのでしょうか。みなさんのお言葉には「自分たちが守る」「協力して守る」というキーワードが共通していたように感じました。活動の歴史を学び、今後の地域づくりのヒントにしていけるといいですね！

＼色んな意見があっという、立ち止まり考える時間を！野村前区長にお話を聞きました！

『荻町未来会議』で、人口減少の中、どう荻町を守るのか。ということをおっしゃっていた野村さん。自ら企画した『荻町の未来を考える会』では「若者の思いに触れ、視野が広がった」といいます。“次の世代は帰ってこないよ、移住者を受け入れていくことも必要なのでは”という若者の声を聞き、「荻町を守っていくには確かにそうだが、誰でもいいわけではない」と改めて感じたのだとか。令和6年9月に発足した『荻町を未来に繋ぐ会』では、区長、副区長、各団体の代表、以前の役職者などが集まり、現状の課題や、将来への不安、これから何をすべきか等、話し合いを重ね、『荻町ルールの明文化』の実現に向けて現在進行中だそうです。Uターンで帰ってきた方や若い世代が、何が良くて何がダメなのか悩まなくてもいいようにというだけでなく「今後、時代の流れでルールを変える時がきた際に、議論する材料としてもらえたら」という思うもあるそうです。そして「これからを担う若者自らが、どのような移住者に来てもらいたいのか、しっかりと考えていってほしい」とのこと。「荻町は共に暮らし、共に汗を流していく中で、人と人々が繋がり続けて今がある。人がいないと地域は成り立たないけれど、商売ありきという考え方では、地域内での分断も起こり得る。世代によって、合掌を持つ持たないによって、商売をしているしていないによって、それぞれの立場によって考え方は違うけど、色んな人が暮らす荻町だからこそ、異なる立場の人の声を聞き、一人一人が考え、行動することが大切」と、熱い思いを語ってくださいました。野村さんのお話を聞いて、人の思いに触れることは、考えるきっかけになるなと感じました。次回の『荻町の未来を考える会』には、もっとたくさんの仲間と誘い合って参加したいと思います！〔聞き手：福田〕

12月の活動報告 ※2月の定例会は10日(火)を予定(公民館和室にて)

8日 荻町の未来を考える会 11日 ねそ12月号発行(総務部) 20日 造成茅場茅刈り(一般環境部)
10日 定例会 14日 30周年記念式典・シンポジウム 21日 大寄合・荻町未来会議

1月の協議事項(現状変更申請に関わって) 1月9日開催

****…倉庫建替え